

中信ビジネス情報誌

人Nana

あな

2020 Vol.141
Business information magazine

特集「伝統を継ぐ」
御庭植治 次期土代 小川勝章氏
「時を
生きる庭。」

〔経営者列伝〕
人に寄り添い、
人を和える
和菓子づくり
株式会社伊藤軒

〔この企業にこの技あり〕

昔ながらの版本と技術。
その中に、現代に通じるモダンティがある
株式会社丸二

〔景気動向調査〕

時を 生きる庭。

Special Feature

Traditional arts and crafts

特集「伝統を継ぐ」

御庭植治 次期十二代 小川 勝章 氏

撮影場所／
並河端之七宝記念館庭園

御庭植治
次期十二代
小川 勝章 氏

1973年生まれ。家業に従事しつつ、立命館大学法学部を卒業後、「植治」の作庭に専念。新たな作庭に加え、歴代が手がけた庭園の修景・維持に取り組む。立命館大学評議員。京都精華大学評議員。1級造園施工管理技士。2015年、「御庭植治株式会社」を設立。

家に帰ると、いつもの庭がある。

普段は気にも留めない石や樹が何かを語りかけてきて、それで癒されたり心が定まったりすることがある。

人は庭を見る、だけではない。庭もまた、人を見ている。その繰り返しに「時」を積み重ねる、「植治」の庭…。

剪定鋏の音が、リズムカクに響く。鬱蒼と茂った庭の木々が瞬く間に刈り込まれて、奥まで見通せる空間が生まれる。緑の密度に圧倒されていた視線が自由を得て、少し呼吸が深くなったようだ。高く茂った松の枝にも絶妙なバランスの隙間ができ、そこから晴れ渡った空が見える。視線を落とすと、その空が池の水面に映っている。鯉が泳いでいるのは、池に配された石の間か、流れる雲の間か…。

御庭植治株式会社の小川勝章さんと彼が率いる庭師集団の仕事は素早い。黙々と、ほとんど脇目もふらずに鋏を動かしていく。もちろん、一つの枝を落としては離れてみて構図を確かめる、というようなことをやっていては、何カ月かかっても作業は終わらないだろう。しかしそれにしても、この迷いのなさ。頭の中に完璧な設計図があつて、それを神速で形にしている、ということなのだろうか。

「いや、設計図通りに行かないのが人生ですから。人間の側にお庭をこう見たい、見せたい、という思いがあるように、お庭の側にも、こう見てくれたら嬉しい、という意思がある。私たちは、できるだけそれをくみ取りたいと思っているのです」と、小川さんは笑う。

庭は生きている、という言い方がある。普通は植物の生長や季節の変化を擬人化して言うのだろうが、小川さんはもっと直截に、庭に生命そのものを感じ取っているように見える。



並河靖之七宝記念館外観。板塀の上から覗く黒松が庭園の気配を伝えている。

「お隣の植治さん」「お隣の並河さん」 明治の波濤を生き抜いた伝統と革新。

小川さんが修景を手がけているのは「並河靖之七宝記念館」の庭園だ。並河靖之は明治・大正期に活躍した七宝家で、記念館はもともと並河の私邸兼工房・店舗として建築された。造園業を営む「植治」小川治兵衛とは隣同士で、並河は若くして植木屋の親方を継いだ七代目小川治兵衛「お隣の植治さん」に、作庭を依頼したのだ。

「植治」の創業は江戸期宝暦（一七五一～一七六三）年間に遡る。七代目は中興の祖であり、その作庭は、国の名勝に指定されている山縣有朋別荘（無鄰菴）、西園寺公望別邸（清風荘）、市田弥一郎邸（對龍

山荘）、古川虎之助邸（現・東京都旧古河庭園）、平安神宮神苑、円山公園などをはじめとして、綺羅星の如くである。だが、並河の依頼を受けた明治二十年代半ば、七代目はまだ駆け出しだった。並河邸の作庭は、その後、怒濤の勢いで生み出される「植治の庭」の嚆矢となったのである。

施主の並河自身も七宝家として起業して確かな手ごたえを得つつある時期だった。明治中期、殖産興業・富国強兵の掛け声のもとで、社会全体が浮き足立って近代化を急いでいた。七宝と造園、ジャンルは違えども伝統的な技術と理念を身に深く染み込ませた二人は、その精彩を新しい時代に生



かしていくために闘った。並河邸の庭は、その共闘の跡といえるのではないだろうか。

小川さんは、幼少期を「植治」歴代、とりわけ七代目が手がけた庭園で過ごした。家業とは言え、なんとも贅沢な子ども時代だ。

「小学生の時、作文で『警察官になるか、ケーキ屋さんになるか、家の仕事を継ぐ』と書いたことを覚えています。子どものことですから、お庭の価値とか意味とか、わかるわけがありません。なんとなく周りの大人たちの期待に応えなければ、と思っていたんですね」

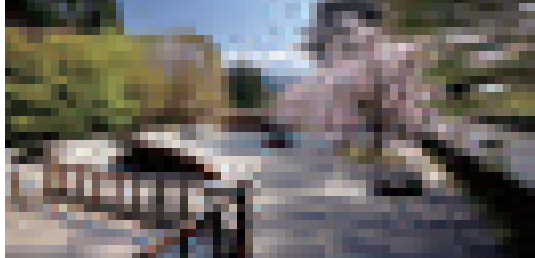


右：池の水は、明治23年に竣工した琵琶湖疏水から導水された。その後、七代目小川治兵衛が岡崎界隈で作庭した庭にも、同様の工夫が見られる。左：庭の要の役割を担う赤松。七代目が植えた頃は、まだ細い幹の小さな樹だったはずだ。





実相院門跡(秋)



実相院門跡(春)



庭が紡いでいく長い物語。 作庭家は、その序章に心を込める。

高校生になると、父・十一代小川治兵衛さんに師事して庭園掃除のアルバイトを務め、大学を卒業すると本格的に「植治」の作庭に専念するようになる。

「でも、お庭の仕事をするということ、いつかは小川治兵衛の名を継ぐということが腹に落ちていたわけではありませんでした。何かがわかってきたのは、本当に最近のこと。先人が、お庭を通して教えてくれているのです」

庭は、言葉話さない。七代目も、幾世代も隔てた子孫が自分の作庭をどう見るかということまで考えて仕事をしていたわけではないだろう。だが、虚心にその場に立てば、庭とそれを見る人の「関係」がおぼろ



上：庭の節目節目にはネクタイを締めて挨拶する。十一代目の教えたという。
下：小川さんの著書。庭に成り代わって、庭の魅力を語る。

げながら感得される。木々の枝振り、石の配置、水の流れ…。庭の景色と、直接には視線の届かない「気配」のようなものに、主が何を求め、何を受け取ってきたか。その思いはどう受け継がれてきたか。その時間の堆積さえもが、若い頃から庭に向きあい、感性を磨き続けてきた小川さんには響いてくるのだろう。

「お庭は、それ単体で成り立っているものではない。私邸ならその人やご家族の生き様、公園や神社仏閣のお庭なら、その地域のカラーや、土地の歴史…。人との関わりの中で、お庭は生きているのです」

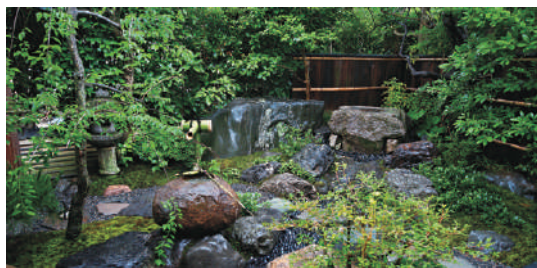
小川さんは作庭を庭師だけで完結した

くないのだという。木の根元にスコップひとつ分の土を入れるだけでもいいから、その家の人に関わってもらいたいのだ、と。そこから、物語が始まる。庭は、長い時間を生きている。時には、主が代替わりしても、物語は続いていく。作庭家は、そのシナリオを最後まで書ききることはできない。だからこそ、人を知り、その思いを知って、庭造りに心を込める。この場所に、良い思い出が積み重なっていくように。持てる技量のすべてを傾けてなお届かない未来の時間への、それは「祈り」のようなものだ。

インタビューしていて、気づいたことがある。小川さんは「お庭」と言う。必ず「お」を付ける。庭を擬人化している、というだけではない。近代日本庭園の可能性を切り拓いてきた「植治」歴代、それぞれの時代の施主や、庭を見て、そこに遊んできた人々の思い、そして、そのすべてを支える自然の豊かさ…。庭と、それにまつわるありとあらゆるもののへの敬意が「お」の一字に込められている。「植治」の庭の神髄を、そこに見たような気がした。

暖簾に染め抜かれた「植治」のロゴ。明朝体の細い横線を消している。無いのに、有るように読める、省略の美学。

ぎをん梅の井



無鄰菴



人に寄り添い、 人を和える 和菓子づくり

株式会社伊藤軒 代表取締役 中井としお氏



午前10時前。府道35号沿いにある「菓寮伊藤軒」には、開店前からたくさんのお客さんが列をなしていた。辺りに漂う甘い香りに誘われて店の扉を開くと、目にも鮮やかなお菓子たちが出迎えてくれる。社長を務める5代目・中井としおさんに、創業からの歴史や和菓子づくりにかける思いを伺った。

会社が育ったゆかりの地から 新たな一歩を踏み出す

当社の創業は1864年。烏丸高辻を下がった所にある因幡薬師の参道で煎餅を焼いていたという記録が残っています。それ以前の記録は蛤御門の変が起きた際に消失し残っておりません。また、「伊藤軒」という社名からも分かる通り、創業者は伊藤家でした。しかし、跡継ぎが娘しか生まれなかつたため、嫁ぎ先の中井家がお店を継ぐことになったのだと聞いています。

5代目に当たる私は、大学卒業後数年間修行に行き、家業に入りました。幼い頃から祖父母には継いでほしいと言われていましたし、従業員にもよく遊んでもらっていたので、継ぐ以外の選択肢は考えていませんでした。今思えば、周囲の期待に応えたい、不安にさせてはいけないという思いもあったかもしれません。一方で、「いずれはもっと便利な所へお店を移転したい」という考えがありました。しかし、平成元年から深草で商売を続ける中で、考えが変わっていききました。ここには、地元を愛し、土地に根ざして暮らしている



▲「遊び菓」

たくさんの人々がいて、良い神社や大学もある。それまで見えていなかった良さに気付くにつれて、「この場所をもっと良くしたい」という思いが強くなってきました。こうした経緯もあり、2015年、本社工場を伏見深草に新築、「菓寮伊藤軒」をオープンしました。

瓢箪から出た駒は 人気の秘訣

新本社の建設計画を進めていた時、社長だった父は長患いではほとんど会社に来られない状態でした。そのため、専務だった私は父に代わり、会社の経営状況を鑑みながら手続きを進めていました。協議が長引いたこともあり、当初の計画から1年近く遅れてようやく着工したその日、父は亡くなりました。何とも不可思議な話ですが、今思うと、そういう巡り合わせだったのかもしれない。

そんな思い出深い新本社工場に対して、私には「気軽に油茶できて、毎日来てもらえるような場所になりたい」という思いがありました。そこで、前職で飲食店を経営していたという社員に声をかけてみることにしま



▲勤修寺観光農園のシャインマスカットを使ったパフェ。「地元のものを使いたい」という思いを形にした。



▲寒天と砂糖でできた「琥珀」。温度や湿度の影響を受けやすいため、独自のノウハウで品質を均一に保っている。



▲薄い皮で餡を包み、手際よく形を整えていく。簡単そうに見える作業だが、習得に最低でも3年はかかるという職人技だ。

した。提供する料理をお願いしたところ、出してきたのは串カツ（笑）。彼は元・串カツ屋だったんです。さすがにこれはイメージと違うということで改めて話し合った結果、行き着いたのが、肉と魚を使わないという制約を設けること。そこから「野菜」というブランドイメージができていきました。元・串カツ屋の彼は、野菜ソムリエの資格を取得し、現在もメニューを考案してくれています。「流行らなければ社員食堂にしよう」と考えていたのですが、オープン当初から「ランチのおいしい和菓子屋さん」と親しまれ、最近ではパフェも人気を博しています。

和菓子づくりと人づくりで「笑顔の創造」を

20年ほど前から、デザイン会社と協力してパッケージを一新するとともに、商品開発を推進してきました。お菓子に限らず、食品業界は「千三つ」といわれています。新しい商品を1000品目出しても、ヒットするのは3品目程度ということです。

当時、商品開発に携わっていた私は、取り扱う商品数を絞り込み、開発スピードを上げました。そんな中、当たったお菓子の一つが「遊び菓」です。入っているのはかりんとうや金平糖など、昔ながらのお菓子はありますが、少しずついろいろなのが食べられる。そんな目新しさがヒットにつながったのだと思います。

こういった新しい方向性に対して、「これは

和菓子なの？」と疑問に思われる方もいます。ですが、和菓子の「和」には「足す」という意味もある。伝統を守っていくことはもちろん大切ですが、時代に合わせて新しい要素を足したお菓子も、当社の「和菓子」として開発していきたいですね。また、「和」には「人を和える」という意味もあると思います。冠婚葬祭や、大切な人と会う時の手土産など、人生の悲喜こもごもに寄り添い、人と人をつなげる和菓子。その結びつきから笑顔を生み出すことが、当社の理念である「笑顔の創造」であり、私たちが目指すべき和菓子づくりだと考えています。

現在、先行きが見えづらい時期ではありますが、今後は設備投資で和菓子づくりをさらに充実していきたいです。また、職人さんたちも高齢化してきているので、若手職人を育てていく必要もあります。ノウハウを引き継ぎ、そこから新しいアイデアを生み出せる「人づくり」は、和菓子づくり以上に重要な課題です。会社を支えてくれるのは社員であり、来てくださるお客さま。大変な状況だからこそ、「人」の大切さを忘れずにいたいですね。



▲野菜ソムリエ監修のランチが楽しめるカフェは連日多くの人で賑わっている。

株式会社 伊藤軒

2015年に「菓寮 伊藤軒」をオープン。伝統的な和菓子づくりだけでなく、時代の変化に合わせた新しい和菓子の形を提案している。短いスパンで商品を改廃する柔軟性を強みに、「とれとれ海鮮どん」や「ばりうま煎」など、ネーミングにもこだわった商品開発を積極的に推進。近年は、SOU・SOUやFILEなど他業界とのコラボレーションにも取り組んでいる。



【本社・菓寮 伊藤軒】
〒612-0829
京都市伏見区深草谷口町28-1

【物流センター・伏見工場】
〒612-0823
京都市伏見区深草東軸町10

【東京事務所】
〒121-0075
東京都足立区一ツ家2-10-20

沿革

1864年 創業
1896年 六条室町の地に製造工場竣工、烏丸煎餅として販売
1952年 株式会社化、卸問屋部門及び小売部門、西洞院店・六条室町店・六条新町店開設（現在は閉店）
1964年 東京進出
1966年 九条東寺道の地に本社移転
1969年 自社加工工場竣工
1976年 東京事務所開設
1988年 深草に物流センター竣工
1990年 飴工房竣工
1998年 煎餅工房竣工
2000年 本社売店開設
2007年 伏見工場竣工（焼き菓子工房・加工工場移設）
2009年 東京事務所改装
2015年 本社工場移転（本社移転に伴い本店移転）
2017年 資材倉庫増設
2018年 新ブランド「伊藤軒/SOU・SOU」立上げ
2019年 京都下鴨にFILECAFE設立

この企業に この技あり

株式会社 丸二
Maruni Co., Ltd.

昔ながらの版木と技術。

その中に、現代に通じるモダンテイがある

工房の中心にある大きな作業台。その上には、襖紙サイズの大きな和紙と、文様が彫刻された版木が置かれている。まずは、^{ふるい}篩と呼ばれる道具に刷毛で薄く絵の具を付け、版木に移していく。その上からそっと和紙を下ろした後、手で優しく擦って和紙に文様を摺^すっていく。馬^ば棟などの道具は使わず、版木に乗った色を和紙で吸い取るように、薄く色を付けるのがポイントだ。これを2回繰り返すことで、膨らみのある柔らかな風合いの唐紙に仕上がる。

傍目には何とも難しそうに見えるこれらの作業。しかし、摺師^{すりし}の工藤さんによると、意外にも「摺る作業自体はすぐできるようになる」そうだが…。その日の湿度によって微妙に伸び縮みする紙と版木の位置を職人のさじ加減で調整し、文様の境目がきれいに連続するよう摺り上げる。その職人としての感覚を鍛えるのには、やはり相当な時間がかかる。

摺師
工藤 裕史 氏

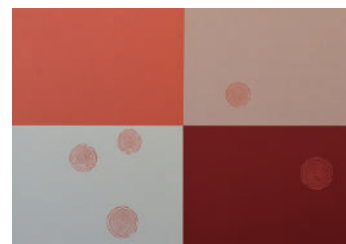
雲母(きら)と布海苔、水を使って摺られた桐の花。金銀の箔を四角く切った「切り箔」を唐紙文様で表現した「琳派」のデザインだ。

貼る技術から、摺る技術へ

烏丸高辻から東へ徒歩約5分の所にある「株式会社 丸二」。明治35年に創業し、100年以上上唐紙に携わってきた京都の老舗企業だ。オフィス兼ギャラリーの建物の隣には、京からかみ体験工房「唐丸」が並ぶ。入り口近くに併設されたギフトショップを横切り2階へ上がった所が、工藤さんが唐紙を製作している工房だ。

先述の通り熟練を要する摺師だが、その技は、唐紙が爆発的に発展した江戸時代にはまだ存在していなかった。当時、襖紙の12分の1サイズの紙しか漉くことができなかった日本において、文様を合わせる技術が必要とされたのは、襖などに唐紙を貼り合わせる職人だったからだ(※1)。明治時代に入り、大きな紙を漉くことができるようになった後、今度は摺師に、紙の中で版木の文様をつなぎ合わせる技術が求められるようになっていったというわけだ。

受け継いだ技術を融合し、新しいモノへ



※1 江戸時代には、襖紙の12分の1サイズの唐紙しか作ることができなかった。柄を合わせる技術は必要なく、「道具さえあれば、誰でも簡単に摺れたと思いますよ」と西村さん。

現在、2名の摺師を抱える丸二では、伝統的な「京からかみ」作りを続ける一方で、版木そのものを使ったインテリアやスタンプの製作にも力を入れている。所有する版木の文様をデータ化して保存し、レーザー彫刻機を使って彫ることで、インテリアやギフト商品に転用できるというわけだ。さらに、データ化によって木以外の素材にも唐紙文様をプリントできるようになった。最近では、その技術を生かしてガラスやアクリルなどを使った新商品も開発している。「工程の一部をIT化

版木に刻まれた継承の痕跡と伝統美

こうした新たな取り組みの根幹にあるのが、同社が管理する約300枚の版木である。「廃業した版元から譲り受けたものも多

することで、版木の製作にかかるコストを削減でき、お客さまの利用度も高まりました。中には、『オリジナルの版木を作ってほしい』という方もいらっしゃいます」と教えてくれたのは4代目社長を務める西村和紀さん。体験教室やコラボレーション商品の開発など、他の伝統産業と連携した唐紙の需要開拓や認知度向上にも、西村さんは積極的に取り組んでいる。その一つが、京仏具の塗師と共同開発した「漆からかみ(※2)」だ。漆特有の艶と、唐紙の落ち着いた風合いが特長的なこの商品は、壁紙や襖紙だけでなく、アートパネルとして活用されることも多いという。

くあると聞きます」と西村さんが話す通り、版木の裏面には、いくつもの版元の名前が記されていた。印刷技術の発展で昔ながらの手法が廃れ、唐紙屋が次々に廃業していく中、版木だけは同業者に託され受け継がれてきたのだ。丸二が使用する版木は、最も古いもので天保8年製。180年以上前に彫られた版木だが、最近まで現役で使っていたという。また中には、桐の花や波頭など、デザイン化された文様も。これらは本阿弥光悦や尾形光琳に代表される「琳派」の作風を引き継ぐものだ。その高いデザイン性は、インテリアとしても注目を集め、400年が経った今なお人々を魅了し続ける。

100余年前に作られた版木には、何百年も昔から連綿と続いてきた伝統美術の歴史が刻み込まれている。その流れの中にあつて、丸二が作る唐紙もまた、昔ながらの日本美術であると同時に、現代に通用する様式美を秘めている。



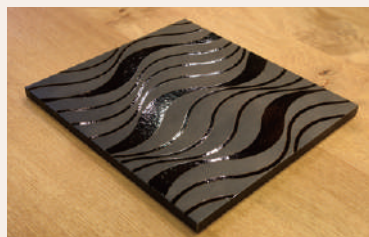
職人と経営者。双方の目線から唐紙の可能性を広げていく。

代表取締役 西村 和紀 氏

ある日、倉庫の中から見つけた、一枚のインテリアパネル。祖父が作ったその作品を見て、「唐紙をもっと盛り上げていきたい」と考えるようになりました。しかしこれから先、自社の力だけで事業を存続・発展していくことはさらに厳しくなっていくでしょう。幸いにも京都には、たくさんの伝統工芸が根づいています。他の産業と協力し、いろいろな技術を融合することで、現代のライフスタイルに合った新たな付加価値が生まれてくると思います。



西村さんの祖父・正雄氏が製作したインテリアパネル



※2 「漆からかみ」は京仏具の塗師屋と共同開発した丸二オリジナル製品。文様が摺られた箇所は漆が表面に残り艶が出る一方、紙の部分は漆が浸透し、和紙本来の落ち着いた風合いに仕上がる。

京からかみ 

〒600-8076 京都市下京区高辻通堺町
東入ル 泉正寺町462
TEL:075-361-1321
FAX:075-361-8876
<https://www.maruni-kyoto.co.jp>

調

査リポート

2020年6月期「中信景気動向調査」結果より

景気動向の概要

業況D.I.は、前期比34.6ポイントの大幅な悪化

地元中小企業の経営環境は、前回調査時から34.6ポイント悪化の△67.3となり6期連続の悪化となりました。業種別に見ても、製造業で27.5ポイント、卸売業で7.5ポイント、小売業で38.9ポイント、サービス業で48.2ポイント、建設業で48.3ポイント、不動産業で54.2ポイントと全業種で悪化となりました。新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言に伴う影響が色濃く反映された結果となり、大幅な悪化となりました。

業況D.I.の2020年9月期予想は、全業種平均で前期比7.4ポイントの悪化を予想しています。業種別では、小売業（1.3ポイント改善）を除き、製造業で6.8ポイント、卸売業で11.9ポイント、サービス業で3.3ポイント、建設業で14.0ポイント、不動産業で6.3ポイントの悪化を予想しています。売上D.I.についても全業種平均で5.3ポイント悪化、収益D.I.も全業種平均で4.8ポイント悪化を予想し、業況・売上・収益D.I.すべてで悪化を予想しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言下で実施された今回調査

調査要領

全体	752社	(調査時点 2020年5月中旬)
製造業	262社 (34.8%)	サービス業 92社 (12.2%)
卸売業	108社 (14.4%)	建設業 142社 (18.9%)
小売業	100社 (13.3%)	不動産業 48社 (6.4%)

対象範囲 京都府内、一部の滋賀・大阪・奈良の当庫取引先1,030社

回答数 752社 回答率 73.0%

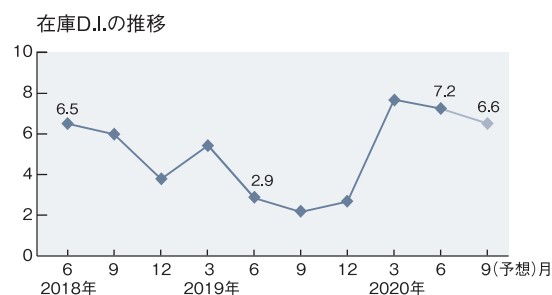
分析方法 D.I. (Diffusion Index) による

*D.I. = 「増加」(増加+やや増加)と回答された企業割合 - 「減少」(減少+やや減少)と回答された企業割合

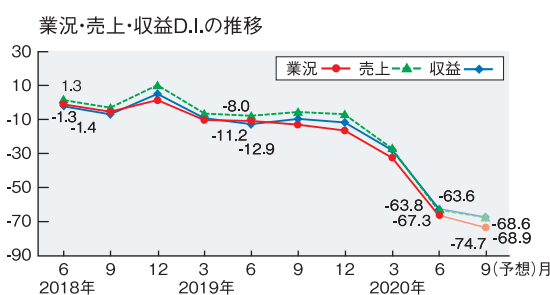
査結果は、外出自粛やさまざまな業種での休業の広がりなど、経済活動が大きく制約され、国内需要が急速に冷え込んだ上、国境をまたぐ人の移動の制限などのインバウンド需要の急速な減退の影響を受け、地元中小企業全体の景気感は大幅に悪化しました。人手不足感が強まっていた雇用情勢が反転し雇用環境が厳しい局面を迎える中、緊急事態宣言解除後に徐々に始動している経済活動によって景況感の下げ止まりが期待されています。新型コロナウイルス感染拡大の影響がいつまで続くのか、今後の雇用動向も含め、地元中小企業を取り巻く経済情勢の今後の動向が注目されます。

全業種

在庫 | 在庫D.I.は横ばい



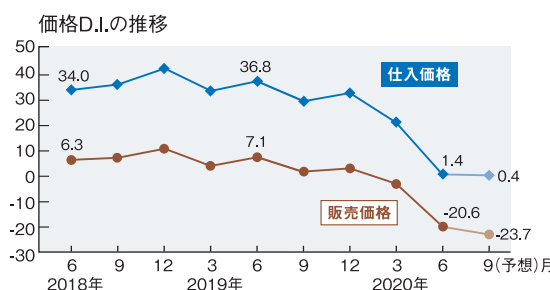
業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて大幅に悪化



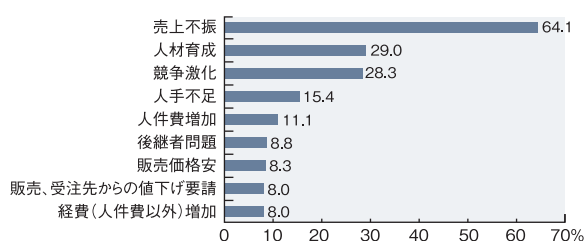
設備投資 | より慎重な姿勢



価格 | 販売・仕入価格D.I.はともに大幅に下降し、乖離幅は縮小



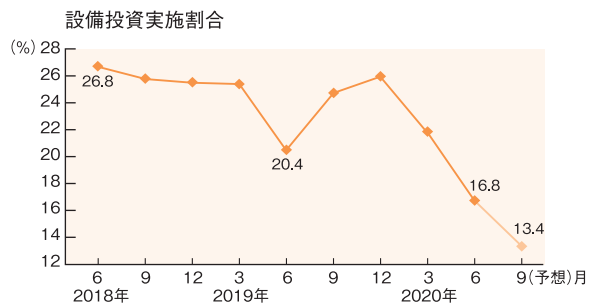
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



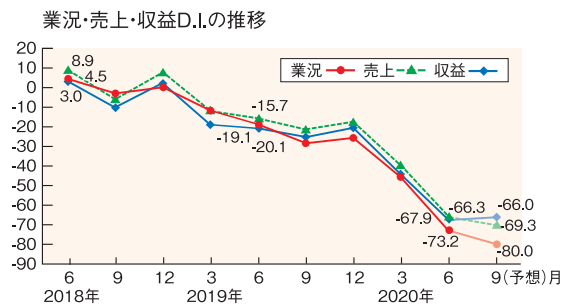
雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇



設備投資 | より慎重な姿勢



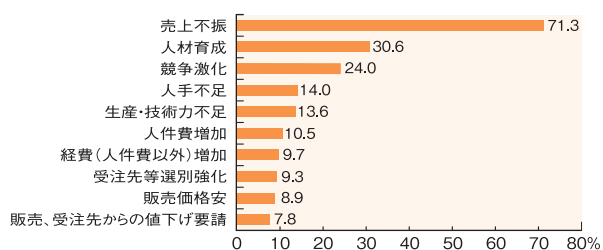
業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて大幅に悪化



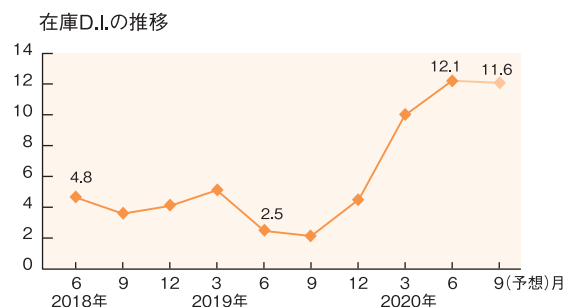
製造業

雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇

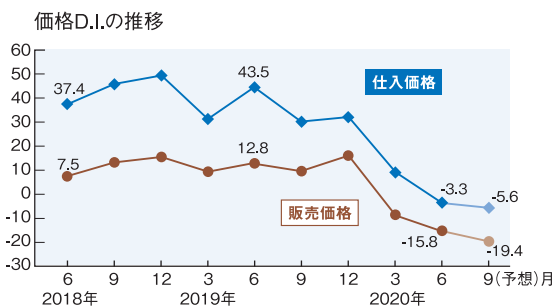
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



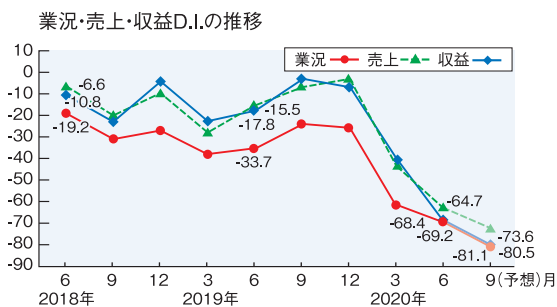
在庫 | 在庫D.I.は上昇



価格 | 仕入・販売価格D.I.はともに下降し、乖離幅は縮小



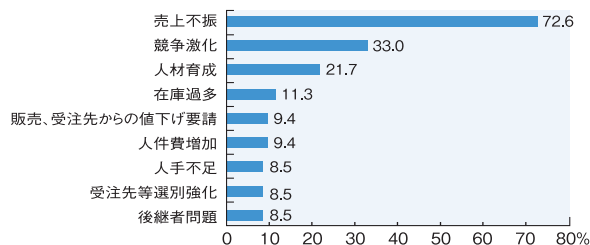
業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて悪化



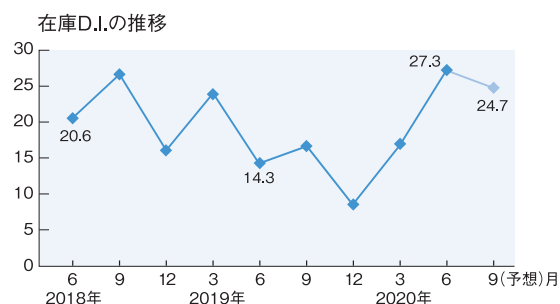
卸売業

雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇

経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



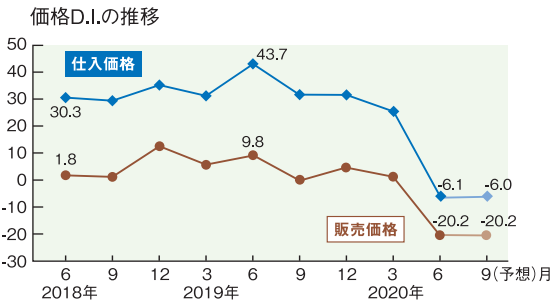
在庫 | 在庫D.I.が大幅に上昇



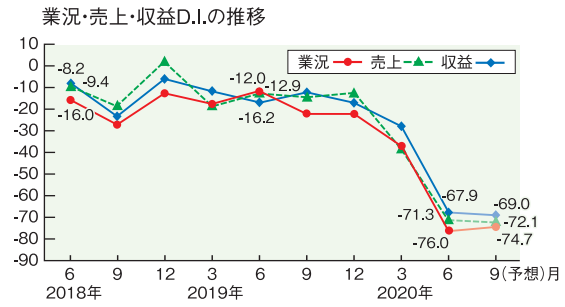


小売業

価格 | 販売・仕入価格D.I.ともに大幅に下降、乖離幅は縮小

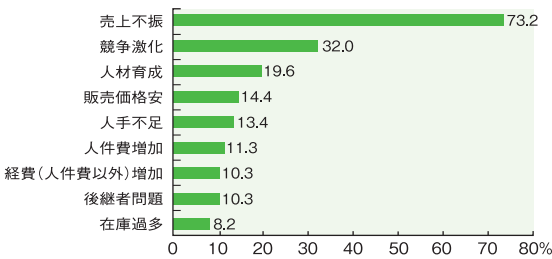


業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて大幅に悪化

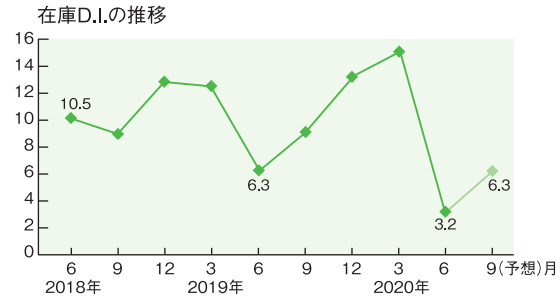


雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇

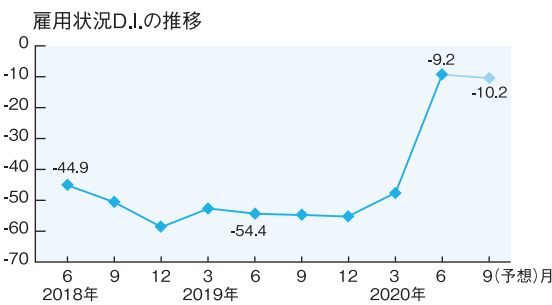
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



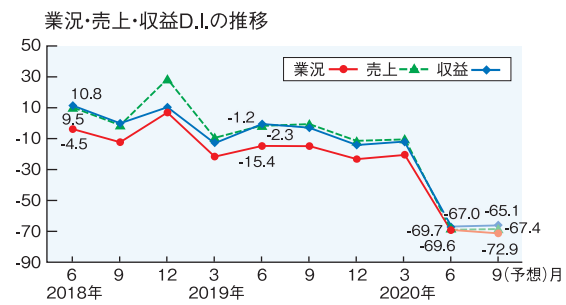
在庫 | 在庫D.I.は大幅に下降



雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇

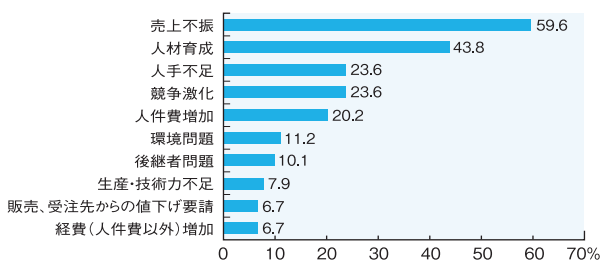


業況 | 業況・売上・収益D.I.はすべて大幅に悪化

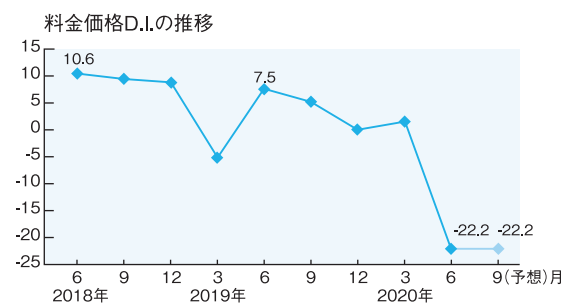


サービス業

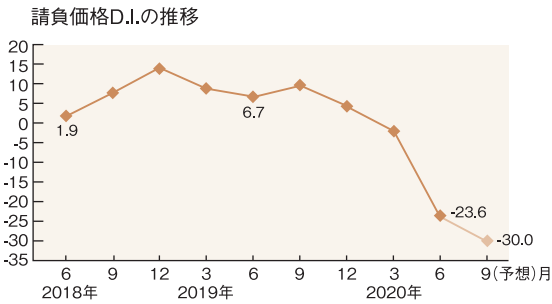
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



価格 | 料金価格D.I.は大幅に下降

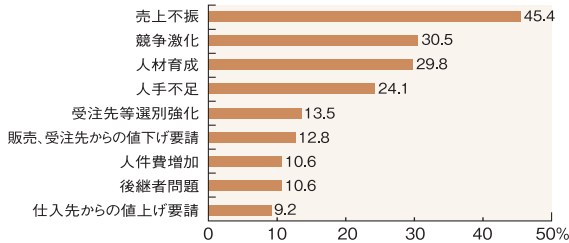


価格 | 請負価格D.I.は大幅に下降

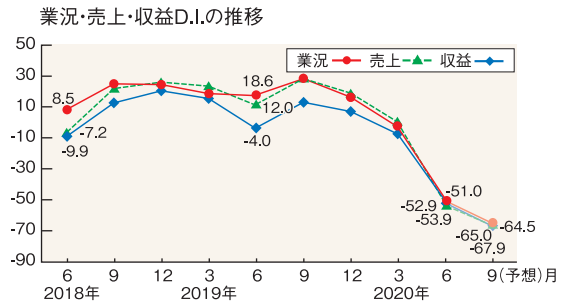


雇用状況 | 雇用D.I.は大幅に上昇

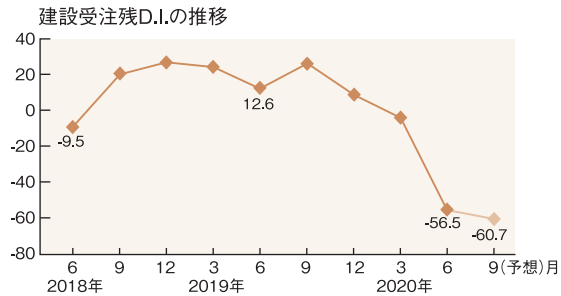
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて大幅に悪化



受注残 | 受注残D.I.は大幅に下降

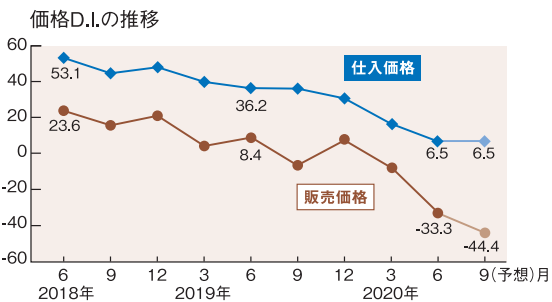


施工高 | 施工高D.I.は大幅に下降

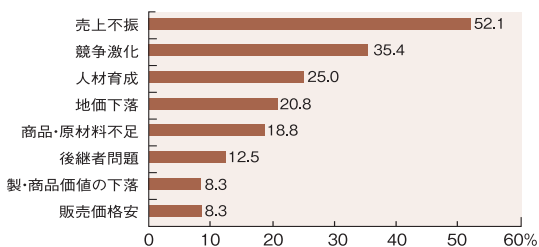
在庫 | 在庫D.I.は大幅に下降

建設業

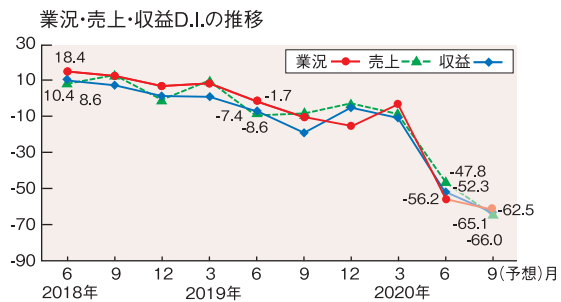
価格 | 販売・仕入価格D.I.はともに大幅に下降、乖離幅は拡大



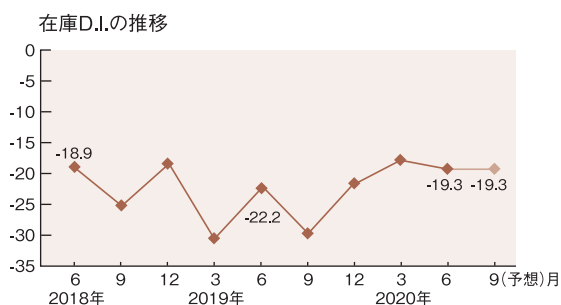
経営上の問題点 | 「売上不振」が大幅に増加



業況 | 業況・売上・収益D.I.すべて大幅に悪化



在庫 | 在庫D.I.は下降



不動産業

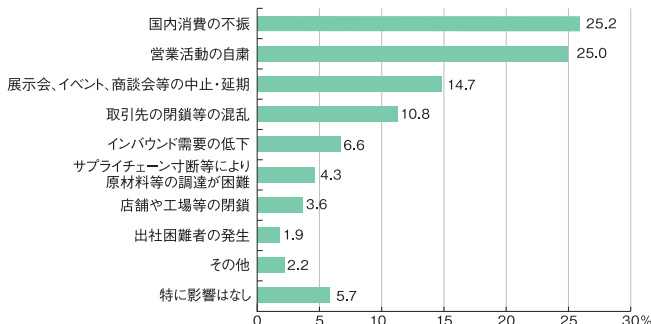
「新型コロナウイルスの感染拡大による中小企業への影響」について

調査先数 1,030 社
有効回答数 752 社
調査日 2020年5月中旬

1 事業活動は、新型コロナウイルスによる影響を受けていますか。

全体では「国内消費の不振」が25.2%、「営業活動の自粛」が25.0%、「展示会・イベント、商談会等の中止・延期」が14.7%、「取引先の閉鎖等の混乱」が10.8%、「インバウンド需要の低下」が6.6%、「サプライチェーン断等により原材料等の調達が困難」が4.3%、「店舗や工場等の閉鎖」が3.6%、「出社困難者の発生」が1.9%、「その他」が2.2%、「特に影響はなし」が5.7%です。

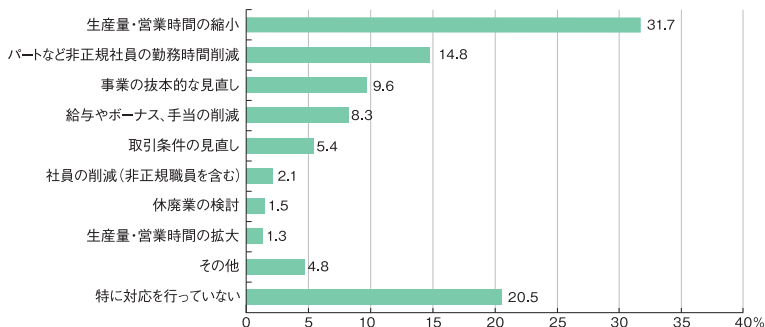
新型コロナウイルスの影響



2 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、どのような対応をとられていますか。

全体では「生産量・営業時間の縮小」が31.7%、「パートなど非正規社員の勤務時間削減」が14.8%、「事業の抜本的な見直し」が9.6%、「給与やボーナス手当の削減」が8.3%、「取引条件の見直し」が5.4%、「社員の削減・非正規職員を含む」が2.1%、「休業の検討」が1.5%、「生産量・営業時間の拡大」が1.3%、「その他」が4.8%、「特に対応を行っていない」が20.5%です。

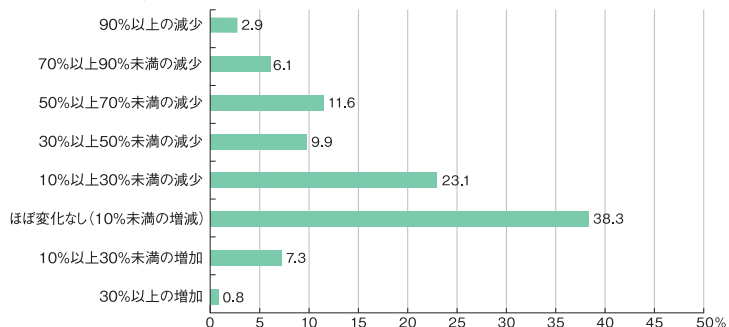
新型コロナウイルスへの対応



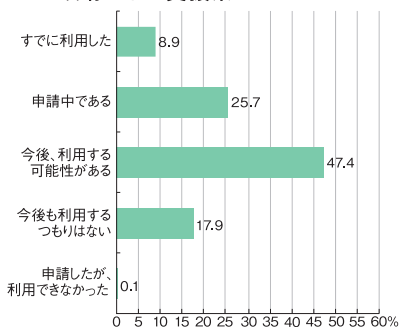
3 今期(4~6月)の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合(例年の4~6月)と比較して、どの程度変化しましたか。

新型コロナウイルスの影響による売上の変動について、全体では10%以上の減少が53.6%、「ほぼ変化なし(10%未満の増減)」が38.3%、「10%以上の増加」が8.1%となりました。

例年通りの売上変動見通し

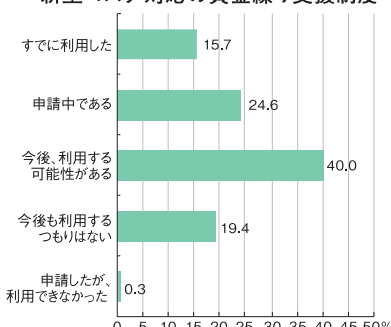


政府による支援策



4-2

新型コロナ対応の資金繰り支援制度



4-1

危機関連保証や制度融資など、新型コロナウイルス対応の資金繰り支援制度を利用しましたか。

資金繰り以外の政府による支援策を受けましたか。

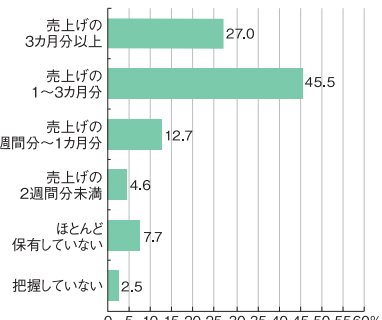
全体では「すでに利用した・申請中である」が34.6%、「今後、利用する可能性がある」が47.4%、「今後も利用するつもりはない」が17.9%、「申請したが、利用できなかった」が0.1%となりました。

5-1

新型コロナウイルスの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していましたか。

全体では「売上げの3カ月分以上」が27.0%、「売上げの1~3カ月分」が45.5%、「売上げの2週間分」が12.7%、「売上げの2週間未満」が4.6%、「ほとんど保有していない」が7.7%、「把握していない」が2.5%となりました。

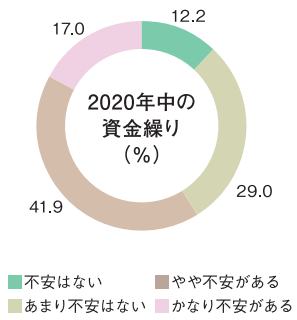
現預金の保有程度



5-2

2020年中の資金繰りについてどう考えますか。

全体では「不安はない」が12.2%、「あまり不安はない」が29.0%、「やや不安がある」が41.9%、「かなり不安がある」が17.0%となりました。約6割の企業で資金繰りについて不安があるようです。



「今年の夏季ボーナス支給予定」について

各グラフの凡例 2018年 2019年 2020年

調査先数 1,030社
有効回答数 752社
調査日 2020年5月中旬

1 今年の夏季ボーナス支給の有無(予定)について

「支給する」が大幅に減少

「支給する」は36.6%で前年比14.7ポイント減少し、「支給しない」は29.2%で前年比5.5ポイントの増加となりました。「未定」は、34.2%で前年比9.2ポイントの増加となりました。

新型コロナウイルスの影響を受け、夏季ボーナス支給の予定について厳しい見方となりました。

2 支給率は?

昨年同様「0.6~1.5ヵ月」が全体の6割強となる

「0.6~1.5ヵ月」の合計が64.4%(前年比0.7ポイント減少)で、前年調査に引き続き高い割合となり、平均的な支給率となっています。また、「1.6ヵ月以上」の高支給率も26.4%(前年比0.3ポイント減少)とほぼ前年調査並みとなりました。

3 金額では?

支給金額は「20~30万円未満」が中心
支給金額では「20~30万円未満」が前年比0.9ポイント増加の30.3%で最も高い割合となりました。「30万円未満」までの合計が全体の52.5%を占め、前年比では4.0ポイント減少しています。

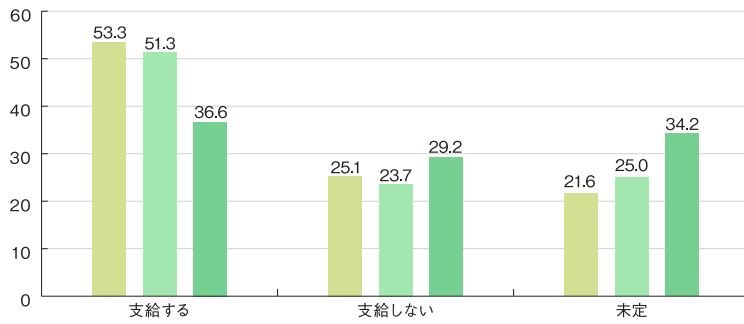
4 支給率、対前年比では?

支給率では「前年を上回る」が前年比4.1ポイント減少の3.6%、「前年並」は前年比15.2ポイント減少の70.4%、「前年を下回る」は前年比19.4ポイント増加の26.1%となりました。

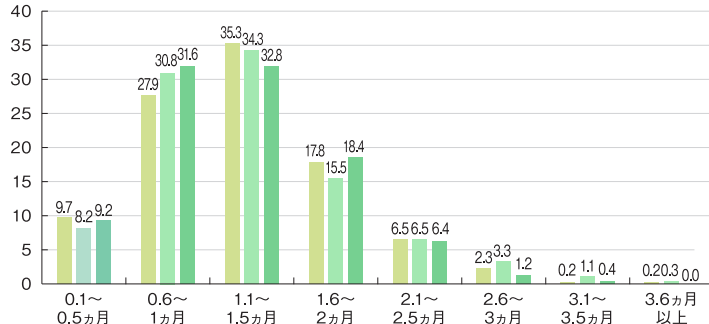
5 支給金額、対前年比では?

支給金額では「前年を上回る」は前年比5.4ポイント減少の3.3%、「前年並」は前年比16.4ポイント増加の68.7%、「前年を下回る」は前年比21.8ポイント増加の28.0%となりました。

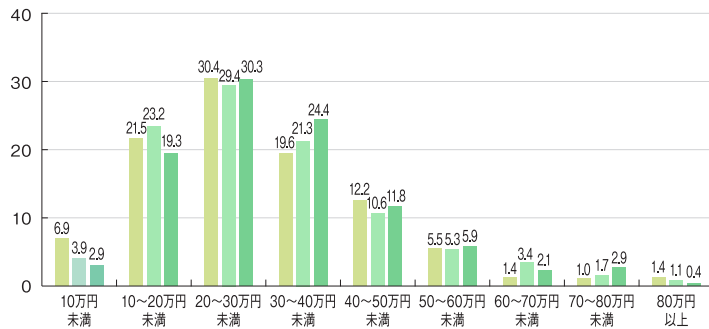
夏季ボーナス支給予定(%)



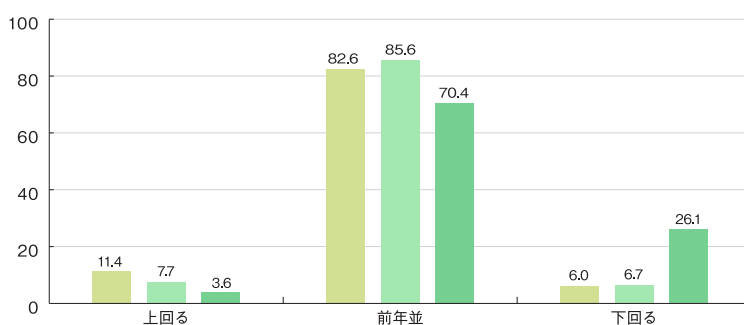
支給率(%)



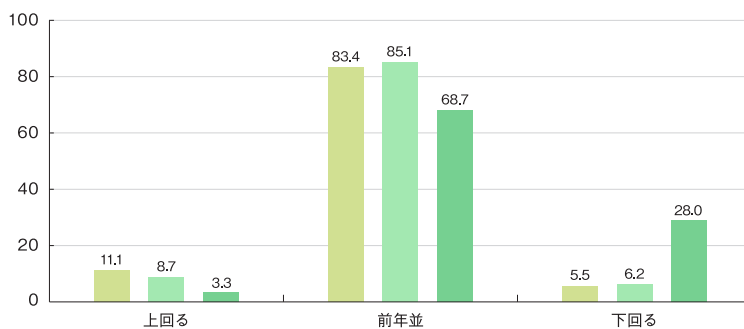
支給金額(%)



前年対比(支給率%)



前年対比(支給金額%)





この街の 未来を紡ぐ

京都中央信用金庫は、いつも皆さまの隣で肩を並べ、声を掛け合いながら
同じ夢、同じ目標に向かってまっすぐ歩んでまいりました。
より豊かな社会をめざし、これからもこの街の未来を紡いでまいります。



京都中央信用金庫

発行 | 2020.10

京都中央信用金庫 On Your Side事業部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91番地

TEL (075) 223-8385 / FAX (075) 223-2563

URL <https://www.chushin.co.jp>

印刷 | 佐川印刷株式会社



この報告書は環境に
配慮し、植物油インキを
使用しています。